受賞作品

【大規模建築部門】

《最 優 秀 賞》

トラストファーマテック株式会社　社屋

設計者：㈱走坂建築設計事務所　　水上　諭

施工者：石黒建設㈱

《優　秀　賞》

福井銀行　今立支店

設計者：㈱ヒャッカ　丸山　晴之

施工者：㈱関組　㈱キヨエイビルド

《奨　励　賞》

幼保連携型認定こども園　よつばこども園

設計者：一級建築士事務所あとりえ・こらる　伊藤　絵梨

施工者：竹野建設㈱　㈱丸道工務店

【中小規模建築部門】

※ 応募なし

【住宅建築部門】

《最 優 秀 賞》

足羽川沿いの家

設計者：清水隆之建築設計事務所　　清水　隆之

施工者：㈱見谷組

《優　秀　賞》

浅水の家

設計者：野路建築設計事務所　　野路　敏之

施工者：㈱木だて家

《優　秀　賞》

大野市木本に建つ伝民の家

設計者：やすらぎの家設計工房　　大月　和源

施工者：大南建設工業㈱

《優　秀　賞》

心月の住まい

設計者：永森建設株式会社アイ設計事務所　田中　宏邦　　坪川　由美子

施工者：永森建設㈱

現地審査風景

第９回ふくい建築賞　報告

ふくい建築賞実行委員会
矢　尾　憲　一

建築士会・建築士事務所協会・JIA建築家協会の設計３団体が主催し、福井県の建築業界の人材育成を目的に創設された「ふくい建築賞」は、今年度で９回目の開催となります。募集は前回同様の昨年10月３日～12月16日までで、大規模建築部門（延べ面積が500㎡以上）３点、中小規模建築部門（同500㎡以下）応募なし、住宅建築部門６点の合計９点（昨年17点）の作品の応募がありました。
今年も県内建築関係9団体の協賛と県・福井市をはじめマスコミ4社の後援をいただきました。心より感謝申し上げます。

一次審査は１月13日応募書類により実施。審査は蜂谷　俊雄（としお）委員長（金沢工業大学教授）、高嶋　猛（たけし）委員（元福井大学講師）、清水　俊貴（としたか）委員（福井工業大学准教授）の3名により慎重な議論を経て、大規模部門３点、住宅部門４点の計７点を二次審査対象作品に選びました。

二次審査は２月24・25日の2日間にわたり審査委員が県内一円の現地を訪れ、直接設計者から説明を受けました。その結果、大規模部門２点、住宅部門４点を最終審査対象作品に選びました。また「幼保連携型認定こども園　よつばこども園」を奨励賞として選びました。

最終審査は３月25日（土）福井県中小企業産業大学校にて約60人の聴衆が見守る中、公開審査会が開催されました。開催に先立ち、本年からこの建築賞の審査委員長として参加された蜂谷俊雄（金沢工業大学教授）様より「時代を超えて受け継ぐ夢」と題した講演会が行われました。学生時代の建築雑誌コンペの受賞作品と最近の建築作品（木造酒蔵の改修）を見せていただきました。

引き続き、最終審査にノミネートされた６作品の設計者による各16分間のプレゼンテーションと質疑応答を経て、公開による熱心な議論が行われた後、部門毎に審査委員による採点と講評が行われました。名誉ある最優秀賞として、大規模部門は「トラストファーマテック株式会社　社屋」（25点）、住宅部門は「足羽川沿いの家」（29点）が選出されました。また、優秀賞に大規模部門「福井銀行今立支店」（19点）、住宅部門「浅水の家」（22点）、「大野市木本に建つ伝民の家」（20点）、「心月の住まい」（21点）の3作品が選ばれました。（（　）内は獲得点数：30点満点）

審査風景

各部門とも審査委員による作品の評価順がほぼ同じ傾向となり、最優秀と他作品に得点差が表れた公開審査会でした。

審査会の最後に蜂谷審査委員長より総評があり、奨励賞作品への評価とアドバイス。また各部門作品の特徴と評価が分かれた要因など、解説をいただきました。さらに今年から審査委員長に就任した感想として、富山県・石川県、最後に福井県の建築賞の審査に関わることになり、北陸に建つ建築の「地域性やその生かし方」を見つめていきたいと、お言葉を頂いきました。

この建築賞も創設以来９年目となり、今回は３年続いた新型コロナ禍の影響か応募数が減少しました。しかし、この活動は県民に理解され支持されるように継続していくことが大切です。多くの作品の参加が「ふくい建築賞」の原動力です。会員の皆様の来年度の応募をお待ちしています。

授賞式記念撮影

■ 第９回ふくい建築賞　総評

審査委員長　蜂谷 俊雄（金沢工業大学教授）

今年度から「ふくい建築賞」の審査委員長を拝命いたしました。富山県高岡市出身で、故郷北陸の建築文化に貢献できることを願って47歳で金沢工業大学教授に着任し、富山県建築賞、金沢都市美文化賞、そして最後に「ふくい建築賞」の審査に関わることができました。設計実務を43年間継続してきましたが、一作ごとにクライアントとの新たな出会いがあり、設計プロセスは苦心惨憺の連続でした。今回の応募作品にも短時間の審査では計り知れない苦労があったはずです。建築賞の評価は応募書類と現地確認をもとに各審査員の見識や価値観でなされます。その評価が絶対に正しいとは言えませんが、以下に審査評を求められた私個人の評価を記述いたします。

本賞の審査基準として、「福井の歴史文化、風土」、「意匠、構造、技術」、「防災安全、維持管理、地球環境維持」、「景観形成やまちづくり」、「その他特に配慮したこと」などが記されており、審査の要点が簡潔にまとめられています。地域主催の建築賞の審査において注意すべきことは、建築界のメディアによる影響だと思います。建築関係者が日常的に購読している建築雑誌に掲載された作品に対する論評記述等に影響されることがあるからです。例えば、2018年まで約10年間務めた公共建築賞（公共建築協会主催）の北陸地区の審査では、全国審査に推薦する北陸の代表2作品を選んできましたが、どれも全国審査で競い合えるすばらしい公共施設でした。その時の評価のポイントは日本の建築界に刺激を与える可能性を秘めているかであり、メディアで紹介される建築設計界の潮流を強く意識して選びました。

一方、地域主催の建築賞審査では、全国レベルの建築賞審査にはない地域特有の価値観を反映した評価も必要です。建築メディアの論評のみで評価すると、本建築賞が全国規模の建築賞のミニ版なってしまいます。本建築賞の特徴として「応募者は福井県に在住の建築士資格を有した設計者」という規定がありますが、富山県・石川県の建築賞にこの規定はありません。この規定により著名建築家や大手設計事務所の作品が対象外になり、福井県という地域性がより濃密に反映されることになります。しかし、地域性の生かし方は様々であり、何に福井県あるいは北陸の地域性を見出すかが重要です。今回の審査では、建築材料として地元の木・石・紙を使ったという説明がいくつかありました。地元産材の利用というわかりやすい説明です。また、建築のつくり方においては、雨や雪の多い気象条件に対して大庇や回廊を付加したという説明がありました。これも気候に配慮したわかりやすい説明です。しかし見方をかえれば、全国共通にあてはまるテーマでもあります。私が雪国北陸ならではの伝統的な建築のつくり方として注目しているのは、住居まわりの土縁（土庇）空間を冬季に板戸やガラス戸で囲い込むことで屋内化する内外の中間領域であり、雪国の生活から生まれた可変性です。しかし、今回の現地審査ではそこのような地域性を継承し発展させている事例はありませんでした。

最終審査会では、作品のプレゼンテーションと質疑応答を通して、福井在住の設計者の方々とわずかの時間ではありましたが話すことができました。それぞれ状況は異なりますが、設計に対する真摯な姿勢が伝わってきました。自己主張の優先や賞を狙う姿勢ではなく、気負うことなく自然体で設計をされているという印象でした。ここに地域限定の普段着の会話が生まれる本建築賞の良さがあるように思いました。

■トラストファーマテック株式会社社屋

本作品の特徴は、フレームを重ねたダイナミックな外観表現と、内部の吹抜を介した縦横方向の空間のつながりです。丁寧に解説された応募書類を読むとその意図がすぐにわかりました。まず外観ですが、経済性・合理性のみで決定されることが多い現代社会において、建築外観にメッセージ性を込めて何かを発信したいという意図が出ています。現地審査では製薬会社らしく薬箱を重ねたイメージを狙ったという説明でしたが、この姿から何を感じるかは見る人によって違うと思います。私はうねりながら上昇していく動きを感じました。多くの建築は安定した静的なイメージですが、ダイナミックなバランスを保ちながら躍動していく企業イメージに映りま

した。１階が駐車のピロティになっていることで、この演出効果がさらに強調できています。また、様々な案を提示しながら社内プロジェクトチームと方針を決定していったプロセスも評価できます。一方、内部の吹抜空間は１階から５階まで階段を介して体験できますが、１～２階と３～５階で雰囲気を変えて単調さを無くしています。吹抜部分の面積は、上部のトップライトから各階居室に光を拡散させるのに程良い広さになっています。さらに、「働き方の創造、デザイン、省エネ」についての提案もバランスが良く、書類審査では大手設計事務所の作品ではないかと思いました。ただし、外観表現や吹抜演出は優れていますが、建築雑誌を通した既視感もありました。しかし、これだけの内容の建築を地元の設計事務所と施工会社で実現できたことは高く評価したいと思います。

■福井銀行今立支店

応募書類の写真の第一印象はＲＣ造のコンクリート打放仕上の重厚な表現という印象でした。次に、断面図や工事写真を見ると全てが木造であることがわかり、建築表現と構造体とのギャップに気づきました。モダニズム建築の教育を受けた世代には、建築表現と構造体の一貫性が身についているからかもしれません。そして現地を見ると、外壁面が左官壁で内装には越前和紙が使われていました。さらに上部を見上げると木製梁材のリズムが感じられ、柱材とそれに連続する梁材は黒く塗装されていました。和紙の色・木の色・黒塗装色の三色でミックスされた空間演出は、心地良いと同時に不思議な印象がありました。モダニズム建築の真正性とは異なる新たな独自性を追求されたのかもしれません。平面計画の特徴は、アプローチテラス・風除室・地域交流室からロビーへと続くスペースです。銀行を訪れる人々のために、利便性を超えてこれだけのゆったりしたセミパブリックなスペースが確保できていることは評価されるべきです。今後はアプローチテラスのセミパブリックなスペースをミニイベント等で有効に利用されることを期待しています。

■幼保連携型認定こども園よつばこども園

限られた予算の中で、こども園をつくるための建築的諸条件を解決しながら、幼児が楽しく快適に過ごすための場所を追及された姿勢は評価できました。ただし、近年事例が増えているこども園との違いや本施設ならではの特徴を見出すことができませんでした。

■足羽川沿いの家

足羽川に面する恵まれた敷地環境を最大限に活かそうとした試みが明快に表現された秀作でした。上階にいくごとにテラスを前に迫り出す外観表現に、光に向かって伸びようとする植物のように、足羽川に近付こうとする建築の動的生命力のようなものを感じました。また、力強いコンクリート打放仕上と対峙するように水平方向に３段に重ねたやさしい木格子スクリーン面の対比に、曖昧な表現を消去して全体像を示す明快さがありました。特に注目したのが２～３階のテラス手摺上部のプランターケースが全体像に果たしている役割でした。手摺上部に植物の表現を付加することは誰もが考えることですが、この横に長く連続するプランターケースが、外観を構成するコンクリートと木格子という２つの主役を緊結する重要な表現になっています。さらに、内部空間にも足羽川の魅力を享受する様々なアイディアがあり、川との関係が深く考察されていました。ただし、川の反対側にある階段室周りの空間に閉鎖感がありました。採光や開放的な階段のつくり方の工夫があってもよかったのではと思いました。さて、外観は築10年で環境に馴染んだ味を出していましたが、これまで建築賞や建築雑誌に応募されたことがないと伺いました。今回の審査で初めて社会的な評価がなされたことになりますが、マスメディアで紹介されなくても優れた建築は地方に存在することを示す好例だと思います。

■浅水の家

敷地面積60坪のコンパクトな敷地に対し、南側に庭とガレージ、北側に建物を配したことや、１～２階の諸室の配置、居間上部の南側の吹抜など、教科書的な建築計画になっています。現地審査は冬でしたが、居間から見える前庭のシーンには春・夏・秋に緑豊かな自然が感じられであろうと想像できます。外観は大屋根の深い軒の出と両袖壁でフレーミ

ングし、その内側を桧小板張りの壁面とガラス開口でバランスよくまとめています。住み手の要望をよく聞き取り、それを設計者自身の感性というフィルターを通して、どこにも無理のない設計手法を使って表現されています。違う言い方をすれば、住みやすい家の本質を気負うことなく自然体で追及されているように映りました。ただし、残念なことは、住居全般に注がれていたきめ細やかなこだわりのデザインがガレージの表現にはなかったことです。

■大野市木本に建つ伝民の家

福井県が地域固有の伝統的民家と認めて登録された住宅の改修として、伝統的な外観意匠を大きく損なうことなく、耐震震度（1.0）や水回りの修繕を施して、今後とも住まい続けられるようにされたことは高く評価されます。現代の新しい家と比較すれば不便なところがあったとしても、守るべき伝統があり、それを継承していくと判断されたことに意義があります。一方、伝統的建築物の内部改修設計手法という視点で見ますと、建て主の要望を満たしながら、伝統的なつくりの良さや痕跡を改修部分にどのように活かすかの工夫がもう少し見える形で表現されていると良かったと思います。

■心月の住まい

本住宅では三つのことに注目しました。一つ目は前面道路側の外観に特徴を持たせるために、住居棟と車庫棟の屋根勾配を連動させ、二棟が一体に見えるように表現されていたことです。二つ目は南側の庭を眺める時に意識が集中できるように、左側にガレージの壁、右側に寝室の壁面を配置していることです。三つ目はリビング・ダイニングから吹抜を介してつながる２階との関係です。片流れ屋根の勾配に沿って視線が自然に２階に誘導されます。その時に、宙に飛んだ梁材が背後の階段や２階スペースと呼応し、奥行感と上昇感の演出に役立っています。応募書類の説明と現地審査によって住み手の夢はすぐに理解できました。ただし、個々の建築の部位の意匠、細部の納まり、材料づかいなどに、深掘りするとさらに良くなる可能性のあるところもありました。

■ 第９回ふくい建築賞 講評

審査委員　髙 嶋　猛（髙嶋建築研究所）

１．総評

いろいろな建物を初めて訪問することは、とても刺激が多い。そして、設計者・施工者・施主がその建物に込めた想いの強さを感じることは、やはりうれしいことでもある。その上での審査となる。そこには私なりの建築に対する思い・考えがあり、審査基準としている。

現在、私が専ら関わっているのは古い建物、いわゆる歴史的建造物で、多くが木造である。前回の講評にも書かせてもらったが、歴史的建造物には将来も受け継ぐべき多くの考え方や手法があり、「ふくい建築賞」の応募要項の最初にある福井の歴史文化・風土に深く関与している。歴史的建造物といえども、建てられた時には、程度の差はあろうが最先端の考え方や技術が用いられたであろう。その中で、特に仕上げに関係する「納まり」や「割付」が、良きにつけ悪しきにつけ目を留める作品が多かった。これは歴史的建造物特有のものではなく、新築の建物についても同じである。単に見え・見栄えの問題だけでなく、建築を長持ちさせ、材料を効率的に使用することと大きく関係する。それは、最終の仕上がりまでを設計・施工でしっかり確認できているか、使用材料の経年変化を考慮しているか等々に深く関係する。応募作品には住宅が多かったこともあろうが、多くを占めた木造では意識的に真壁と大壁を考えているか否かが特に目を留めた。また、設計の根幹に大きく関わる「建築計画学」関係での疑問が増えてきたことも否めない。

これらの観点は文字のみで表現することは難しいが、これらを念頭に置きながら私なりの審査基準を設けている。もちろん、建築は「ものづくり」であるという姿勢で審査を行っている。

なお、設計者・施工者・施主との信頼関係があって建築賞への応募ができる。このことは建築に携わる技術者として喜ばしい限りである。

２．入賞作品の講評

大規模建築部門

①トラストファーマテック㈱ 社屋

医薬品製造販売企業の社屋として、あわら市郊外の同社工場群の一角に建てられた、約6,781㎡の大規模な５階建の事務所ビルである。南側(道路面)の外観は、白い枠を持ったほぼ階高分の横長の塊が平面的に角度を変えながら重なる独特の構成を見せる。１階を駐車場を持つ入口階、２階を集会とカフェなどの機能、３・４階を執務機能、５階を役員諸室等として全体が構成される。機能は階ごとに分離されているが、建物の中央最上部に大きなトップライトを設け、その下部に１階から５階まで形を変えながら続く中央の階段が全体を貫通し、全体がゆるやかに結ばれている。内部空間も素材を変えながらまとめられ、今までの事務所空間から脱却しようとした空間構成は評価できる。また、環境面でもZEB Readyの認証を受けていることも特筆できよう。

ただ、施設の主機能である事務所としての執務空間の提案がないことや、日本の伝統的な建築構成方法に疑問があることが惜しまれる。

②福井銀行 今立支店

越前市旧今立町に建つ２階建の大断面木造建築で、南に道路が通る。建物は南北に長く、西側に駐車場を設け、連続する灰色の袖壁が外部の造形を特徴付けている。道路際の平屋建は道路側に半屋外の地域テラスを設け、その内側に地域交流室を設けて銀行の営業時間外も使用できるシステムを設けている。

地域交流を意図した構成は今後の銀行のあり方として評価でき、袖壁による造形は、銀行に要求される安心感の表現として納得できる。また、駐車場を前面から排除したことや開放感のある客溜りも共感できる。ただ、東側の多目的広場との関係も考えて地域テラスを日常動線に取り込み、軒周りや袖壁の下部の造形的あいまいさをなくし、内部に使用した和紙の存在感を活かせれば、より説得力のある銀行となったのではないかと思われる。

③幼保連携型認定こども園 よつばこども園

坂井市丸岡町にある郊外型戸建住宅地の東端に位置し、敷地西側に道路が通る。既存の保育園を使用しながら北側に新築されたため、施設東部の南の壁は西側へ斜めに曲げて計画されている。この屈曲部に主玄関を設け、西を０～２才児、東を３～５才児の保育室と遊戯室とした計画である。園舎は緩い勾配の屋根でゆったりと覆い、屋根面から高窓やドーマー窓を突出させて全体を暖色系の色彩でまとめる。内部は木を全面に現しながら部分的に淡い寒色系の色彩を施してやわらかくまとめられている。

ていねいに造り込まれているが、風土性を考えた時の北面の処理などにもう一歩踏み込んだ配慮があればより使いやすい施設となったと思われる。

住宅建築部門

①足羽川沿いの家

南に足羽川が流れる福井市街地中央部に建ち、竣工から約10年を経過している。敷地南は足羽川の右岸堤防沿い道路が通る。足羽川の向こうに足羽山を望む立地を活かした計画であり、水害にも配慮したRC造３階建である。建物が密集する市街地の住宅として、伝統的な町家の空間構成に倣って中庭を設け、光と風の環境要素を取り入れた計画となっている。正面は３層すべてに軒を出す構成を採り、また、足羽山と足羽川を望むベランダ先端の植栽の工夫により、心地よい内部を実現している。風土性を考慮した快適性が実現され、細部にまで気配りのある構成も好感が持てる。ただ、中央の階段の空間的開放に留意できればより快適な住宅となったと思える点が惜しまれる。

②浅水の家

敷地は福井市郊外に整備された住宅地にあり、南側に道路が通る。南の道路側は庭と駐車場とし、北側に東西に長い矩形平面のコンパクトな形態の２階建住宅を配置する。小規模な住宅であるが手際よくまとめられた平面計画によって狭さを感じさせない。また、通風や温熱環境にも配慮しながら、木肌を活かした開放的な共用空間を中心とした空間構成は心地よい。

ただ、福井の風土を考えた時、南面２階に深い軒があるのは好ましいが、１階の玄関や居間などの開口部上部に庇があったほうがより快適な住まいとなるであろうと思える点や、内部空間の漆喰調仕上げ

と木部との納まり等について、伝統的建築から学ぶことをお薦めしたい。

③大野市木本に建つ伝民の家

敷地は大野市街地の南側に広がる肥沃な農地の南端部の集落にあり、昭和30年(1955)に建てられた。それまでの伝統的な農家住宅の姿を良く伝えている外観を維持しながら耐震性能を向上し、社会の変化に対応する住宅としての性能を確保する修理である。また、簡便な雪囲いの計画など建物の長寿命化を実現した改修となっている。さらに、失われつつある伝統的な景観に寄与していることも大きな特徴である。

ただ、住宅の計画の軸である玄関から仏間への構成、言い換えれば空間構成の軸でもある構成が少し損なわれた改修となったことが惜しまれる。

④心月の住まい

福井市郊外の住宅地にある広い敷地で東側に道路が通る。敷地東側に前庭と車庫を配し、住宅は車庫によって緩く道路と隔離された南庭を持った２階建である。住宅と車庫の両方に、南に緩く傾斜する片流れ屋根を設けた構成が印象的である。広い１階は庭に面する居間・食堂を中心にして回遊動線を設けることで内部空間を一体化していることは評価できよう。

ただ、一部構造的に疑問のある点を解消し、構造材を含めて表面に現れた木部と大壁との接合部との納まりや柱の芯ずれ等を、伝統的建築から学ぶことで、より豊かな空間を現出できるのではないかと思われる。

■ 第９回ふくい建築賞 講評

審査委員　清水 俊貴（福井工業大学准教授）

以下、最優秀、優秀、奨励賞と選定された各作品について、三つの審査過程（書類審査、現地審査、公開審査）にて考えたこと、選択した理由について記述します。

大規模建築部門

１．トラストファーマテック㈱ 社屋

相当な規模を持つ社屋を福井の設計事務所が独自に設計監理を行い、地元の施工者とともに完成にいたったことをまず評価したい。福井の有名産業であるメガネ、繊維などなど福井をベースに県外あるいは国外に展開する産業で福井は成り立っているとすると、建築設計業も福井というローカリティを飛び越えて全国に展開することは自然のことかもしれない。福井以外の場所からの輸入のような設計建物でなく、福井から設計を輸出するような産業としての建築を目指してほしいとも考える。一点、表面仕上げの選択に空間の強さとのマッチングが弱いとは感じた。

２．福井銀行 今立支店

和紙の産地として、創業の地として、これからの地域の銀行の姿、アイデンティティを実装するような建築を目指していることを評価したい。一見地味だけど可能な限り大きな気積を確保する内部空間、コミュニティを創造しようとするギャラリー的空間の設置、地元の製紙会社による和紙仕上げによる壁面…。とっても贅沢な建築、熱意ある設計や施工を感じる。然し乍ら根本的な銀行業務というか、銀行に普通に行った人が一番銀行で行い手に触れる什器、振り込み用紙を書いたり捺印したりする什器やカウンター群など一番手に触れる利用者に近い部分が建築との一体感に欠けていることで、この建築空間の持つ魅力を引き出せていないことが、とてもとても気になった。最優秀に押せなかった１番の理由である。和紙の、産地のための銀行の姿を感じるだけに、今後持続性を持ってこの銀行空間を大事に使い、什器も一体となった産地銀行のかたちを完成させて欲しい。世界中から見学に訪れる観光地としての銀行になる素質がある。設計者だけでなく建築を通じた一体的な地域文化の創造を願う。

３．幼保連携型認定こども園 よつばこども園

設計や計画の真面目さ、丁寧さを書類審査や現地審査でも感じた。ただもう少しのこども園計画を踏まえてのさらなる設計者の踏み込んだ工夫、造形的工夫なり寸法的工夫、空間的な工夫を拝見したかった。一点、書類審査にて「設計士」という言葉に違和感を持った。

住宅建築部門

１.足羽川沿いの家

「都市住宅」って言葉を使いたくなる福井で数少ない住宅。屋内空間に比べて圧倒的に広い目前にある足羽川や堤防、桜並木、足羽山の風景を内部に取り込むための工夫がある。低い天井高、奥行きあるバルコニー、植栽と一体化したプランター手すりなどで、近景、中継、遠景を作り出す仕掛けを仕込む。外部の広がりある風景と決して大きくはない内部空間を調節するように中庭やバルコニー、天井高や造作に至る様々なスケールが設定されている。また上階にいくにつれ階層が迫り出すことで、シンプルに独特に立面的特徴を作り出している。木ルーバーはせり出しを強調しつつ、生活をちょっとだけ覆う役割も担っている。かつ敷地の歴史的暗喩を感じつつ整列し、目前の足羽川の自然とも呼応する。またRC造を採用することで、足羽川に向かって間口方向に大きく開く立面と、強さを感じる打ち放しコンクリートの仕上げを実現している、この場所に住まうための、様々にチューンアップされた居場所を作り出していることを大きく評価したい。

２.浅水の家

素直さをまず感じる住まい。整理された気持ちよさもある。現代の福井らしさ、つまり福井での生活のよさを享受するためにつくられた郊外住宅のスケール感、素材感、そして近隣への配慮と断熱性能の向上を意図した開口部の少ない隣地境界に面する三方の立面にも、近隣に配慮しつつ性能もあげたい真面目な割り切りのよさを感じた。

一点、福井の郊外での生活に切ってもきれない自動車車庫との接続、玄関前の現実的な庇の高さの工夫がよりあったら良いのに、と感じた。

３.大野市木本に立つ伝民の家

耐震を確保しながら、クライアントの機能的な要望に応える案を作成し現実を提案すると、うまく提案が受け入れられないことが設計を行なっているとままある。伝民といえどそこに住まわれる住民の方にとり現代的な生活を享受するために満たさねばならない設計計画と、耐震計画のバランスが難しい。その点で、現代的な暮らし方と伝民に住み続けることのバランスが、空間化して見えていること、耐震計画と設計計画の整合性に関する合理的な整理が見える内部空間であったら、自分ならどうしたかを自問する作品であった。伝民のみならず福井に残る、古くからの農村型住宅を生きられた家にしていくための工夫が望まれる。

４.心月の住まい

広い敷地にて手堅い地元住宅メーカーがのびのびと設計した空間に福井らしさを感じた。玄関からさらに分かれ奥に導かれる客間と、リビングからキッチン横をすり抜けさらに小さなスケールにて引き伸ばされて至る夫婦寝室の配置、大きな住空間の導線計画の中に、裏メニューのような配置が、スケール感を伴って表出していることが興味深かった。僕は建築設計者の仕事は、最終的な寸法はもちろん仕上等材料の身体的距離感を含めたスケール感をコントロールすること、選択を行うことと考えている。もう少し動線とか寸法の大小、長短に関して「攻め」ることが可能ならば、もう個人の設計事務所と住宅メーカーの違いがなくなるなと、個人事務所を営んでいた自分は身が引き締まる思いだった。

ただし公開審査のプレゼに関して、誰のためにプレゼしているのか僕には理解できなかった。公開であることで公平性を持ちつつ審査委員に対してプレゼを行うことが公開審査ではないだろうか。施主や設計者の思い、イメージ等が、現空間につながっていく話をもっと具体的にお聞きしたかった。

以上、各部門の私の選評理由です。

今年度は、応募作品の少なさが残念でした。これにつきます。

【最優秀賞】　トラストファーマテック 株式会社 社屋

設計監理：㈱走坂建築設計事務所　水上 論
施　　工：石黒建設株式会社

建築位置：あわら市矢地
工　　期：´17年12月～´18年11月
構造規模：鉄骨造・地上５階

敷地面積：13,432 ㎡
建築面積：　1,418 ㎡
延べ面積：　6,782 ㎡

当建築物は、働き方の創造・デザイン・省エネの三つの柱を軸に計画した。
多様な働き方を創造する為に、空間・情報・人々がつながるオフィスとし、
快適な執務空間により生まれるシナジー効果を最大限引き出す空間となっている。
また、地球と人にやさしい省エネ性能を実現し、ニアリーゼブの認証を受けた。
社員様が誇れるように、地域の素材や文化をふんだんに取り入れた、シンボリックなデザインとなっている。

【優秀賞】 福井銀行 今立支店

設計監理：㈱ヒャッカ　丸山晴之
施　　工：㈱関組・㈱キヨエイビルド JV

建築位置：越前市栗田部町
工　　期：´20年10月～´21年５月
構造規模：木造・地上１階
敷地面積：1,758 ㎡
建築面積：　653 ㎡
延べ面積：　724 ㎡

地方銀行は地域経済の軸。1,500年の歴史がある伝統産業「越前和紙」が地域の経済・文化そのものである福井県今立地区に、他にはない機能「地域交流室」「アプローチテラス」を整備し、地域の人々が豊かな生活をする為の社会性や交流を育みます。地方、積雪地での中大規模木造化は材料の調達や強度、構法の面から様々な課題があり、特殊な構法や建材は地域の経済に及ぼす影響が小さい。そのため「汎用性のある木造」と「手仕事」を選択し、建築が元来もっている「普請」を地域とともに歩む銀行の本事業としました。

【奨励賞】 幼保連携型認定こども園　よつばこども園

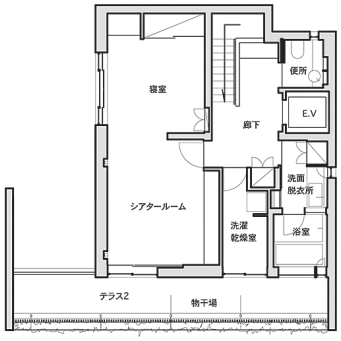
設計者：一級建築士事務所あとりえ・こらる　伊藤絵梨
施工者：竹野建設㈱・㈱丸道工務店

【最優秀賞】　足羽川沿いの家

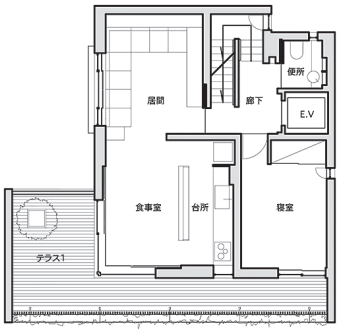
設計監理：清水隆之建築設計事務所
　　清水隆之
施　　工：㈱見谷組

建築位置：福井市中央
工　　期：´11年４月～´12年１月
構造規模：鉄筋コンクリート造・地上３階
敷地面積：144 ㎡
建築面積：　80 ㎡
延べ面積：199 ㎡

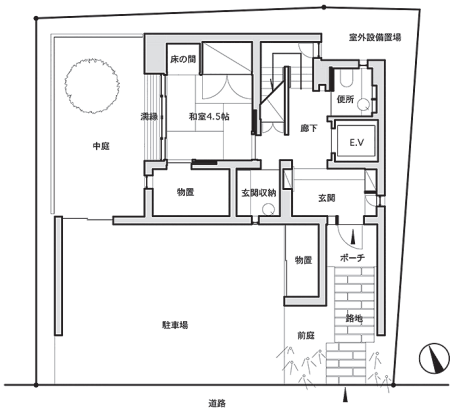
この住宅は福井市の中心市街地を流れる足羽川沿いにある。竣工後10年が経ち、少しアジが出てきた。建築が持つ時間は長い。たった10年ではあるが私にとっては未知の10年であった。まだまだこれからの住宅である。これからも長い時間を想像して、共に成長出来る建築をつくっていきたいと思う。



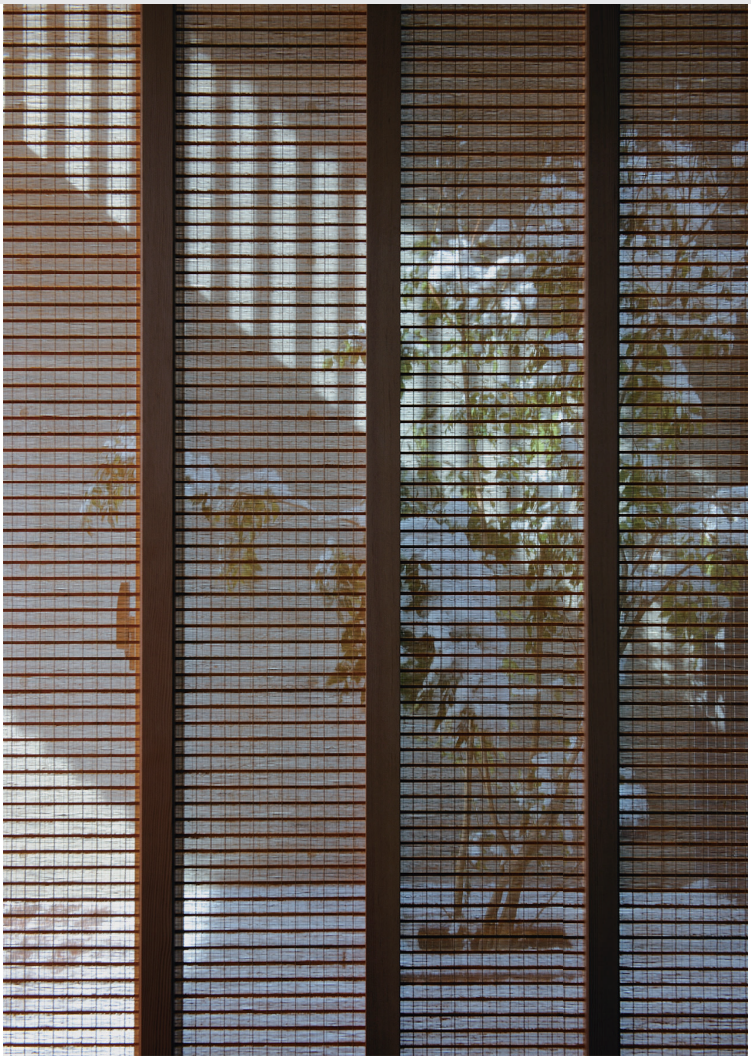
3階平面図



2階平面図



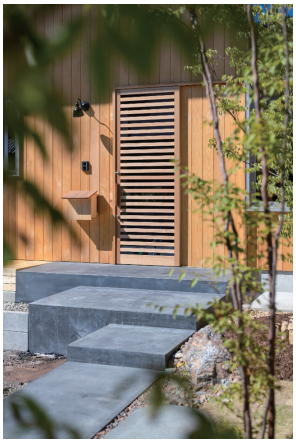
1階平面図



【優秀賞】 浅水の家

設計監理：野路建築設計事務所　野路敏之
施　　工：㈱木だて家

建築位置：福井市浅水二日町
工　　期：´20年３月～´20年９月
構造規模：木造・地上２階
敷地面積：206 ㎡
建築面積：　71 ㎡
延べ面積：112 ㎡



【優秀賞】 大野市木本に建つ伝民の家

設計監理：やすらぎの家設計工房　大月和源
施　　工：大南建設工業㈱

建築位置：大野市木本
工　　期：´20年５月～´20年12月
構造規模：木造・地上２階
敷地面積：499 ㎡
建築面積：188 ㎡
延べ面積：266 ㎡

【優秀賞】心月の住まい

設計監理：永森建設㈱ アイ設計事務所
田中宏邦　坪川由美子
施　　工：永森建設㈱

建築位置：福井市
工　　期：'20年２月～'20年９月
構造規模：木造・地上２階
敷地面積：532 ㎡
建築面積：211 ㎡
延べ面積：192 ㎡

■ 第10回ふくい建築賞作品募集 ■

応募期間：2023年10月～12月(予定)

詳しくは、募集リーフレット（８月発行予定）
をご覧下さい。